



# 同窓会会報平成二十五年秋号

## 久保村さんへの哀悼の言葉



7 M A 島田勝利

久保村昭衛氏は本年6月6日都内の病院にて、83歳の生涯を閉じられました。ご冥福お祈り申し上げます。

久保村先輩、いろいろなご指導本当にありがとうございました。

昭和60年当時、丁度母校の40周年を記念して、卒業生による母校への応援を、更に積極的にやっ  
ていこうとのことで、それまで同窓会会長を努められておられた16M山本利男氏の後任として、先輩の第一期卒業生の久保村昭衛氏(1M)にお願いすることにしました。

以来久保村先輩には30年近く同窓会会長として、我々をリードして頂きました。悲しくも本年6

月6日朝都内の病院にて83歳で息を引き取られました。

久保村氏が会長に就任された翌年に母校40周年記念行事、更に50周年、60周年と同窓会活動の基本を築いて来られました。

今から3年後(平成28年)の70周年行事について、そろそろ準備に入る矢先のことなので、戸惑うことが多々出てきていますが、同窓会副会長の梅田清永氏10Mが会長代行として、その任に就いて頂くことになりましたので、今後は梅田氏を中心に、久保村先輩のご遺志を尊重し活動を続けて行かなければと心に誓うものです。

久保村先輩が会長在任中には、各周年記念行事や清里寮運営代行の発行、先生やPTAの方々を交えての新春交歓会、中工祭での「卒業生の歩み」展示など多方面の活動をリードして頂きました。久保村先輩のお陰で、これらの活動の基盤が整って来ましたので、今後充実していくつもりであります。

久保村先輩は、多くの社会活動

をされておられ、東京都産業教育振興会副会長として、各地の工業学校を訪ねられました。各学校での活躍の状況などのお話をきかせて頂くと、いつかは我が母校もそうなりたいものだ、お話を伺うたびに思ったものです。

同窓会役員会は2ヶ月に一度位のペースで開かれております。役員会のたびに、久保村先輩が訪ねられた学校のお話を聞く機会がありました。その度に同窓会として後輩の生徒のために、やれることはないか、とたえず考えるきっかけとなり、これらが刺激となりまして、役員一同頑張る事が出来ました。

久保村氏は36歳の時に東京秋葉原にて会社を起こされ以来経営者として活躍されて来られました。ご出身が長野県伊那市の関係で伊那市観光大使館を設立され、伊那観光大使としても活躍されました。また会社地元の千代田区万世橋警察署懇話会会長をなされるなど、本当に幅広く活動されておられました。このような活動から子供達を非行に走らせない、素直で強い人間になつてほしいと、人一倍願っておられたのだと思います。これらの雰囲気は久保村先輩のお話の隅々から感じられることが出来、

同窓会活動を活発化させる大きな励みになりました。

又久保村先輩は、会社を興された頃に母校に、図書、校旗、優勝旗を寄贈されておられます。お若い頃から母校の発展を強く願っておられたのだと思われまます。

今は感謝の念で一杯です、本当に有難うございました。どうか安らかにお休み下さい。

## 会長代行に選任されて

10 M B 梅田清永



同窓会長 久保村昭衛氏が平成二十五年六月六日に急逝されたことから、本年六月三十日、中野工業高等学校校長室において同窓会の臨時役員会が開催されました。

その席上、同窓会会則第八条2.に『副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する』と決められています。そのため、副会長(3F) 海野清氏と副会長(10MB) 梅田清永とで調整した結果、梅田清永が同窓会会長代

行をさせていただくこととなりました。任期は前会長の残任期間・平成二十六年六月の総会までとなります。偉大なる久保村前会長のような能力はありませんが、在任期間中頑張りますので、皆様のご協力とご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

教職員と共に手を携えて  
「あいさつ日本一の高校」  
の実現を目指します

学校長 佐々木哲



はじめに、去る平成25年6月6日(木)に、久保村昭衛同窓会長がご逝去されました。昭和60年度に会長に就任されて以来、東京都立中野工業高等学校と同窓会の益々の発展のためにご尽力頂きました。

来る平成28年には、中野工業高校創立70周年の節目を迎えるにあたり、周年行事記念事業の計画に強い意欲を示されています。いよいよ具体的な取り組みがこ

れからという時にお別れすることとなり、無念でなりません。ここに謹んで哀悼の意を表するとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

私ども教職員一同、久保村昭衛会長のご功績に感謝するとともに、ご意志を引き継ぎ、地域の発展に貢献できる中野工業高校を目指して、その発展と拡充を一層深めてまいりたいと存じます。

さて、一万名に達する同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成25年度がスタートし早くも半年が経過しました。入学式式辞でもお話ししましたが、今年度から三カ年計画で生徒の育成目標を「①挨拶を大事にして職業人としての立ち居振る舞いの出来る生徒 ②就職試験に合格できる学力の定着」としました。

5月13日には近隣の住民の方から匿名で本校の生徒の善行を褒めてくださる手紙が届きました。教職員の皆様の生徒への厳しくも暖かい指導を通して中エルネットサンスは着実に前進しています。この流れを加速させ「あいさつ日本一の高校にしたい」と考えています。是非、同窓生の皆様にも体育祭や文化祭等の学校行事等の機会に

母校に足を運んでいただき後輩の頑張る姿にエールを贈っていただきますようお願い致します。

なお本校の情報は、同窓会のご支援で昨年リニューアルした本校公式ホームページで配信(「今日の中工」は毎日更新)しております。是非ご覧ください。

### 総合技術科概要

副校長 豊岡耕一郎



東京都立中野工業高等学校は、平成5年より機械科、食品工業科、工業化学科を廃止して総合技術科を設置しました。1年次は、全員同じ科目を学習し、工業に共通の基本的内容を学び、自分がどのような技術者に向いているかを発見し、2年次は、自分の希望や適性(向き、不向き)を考えて、左記の5つのコースから1つを選び、3年次では、同じコースで専門性を高めていきます。

(1) マシンデザインコース(設計製図系)

従来の工作機械だけではなく、

コンピュータを使ったNC工作機械で金属の加工技術を学んだり、CAD(自動設計製図機)を利用して図面を描き、機械技術全般について学びます。

(2) メカトロニクスコース(電子機械系)

私たちが毎日使うビデオとか自動車は、機械(メカニクス)と電子(エレクトロニクス)の両方の技術を使って動いています。機械をコンピュータで制御する知識や技術について学びます。

(3) フードテクノロジーコース(食品工業生産系)

主に食品の加工・保存などについて学習するとともに、ミニ工場でジュース・肉・果物の缶詰などの生産実習を行います。また、食品の特性や食品添加物、残留農薬や機能性食品などについても学習します。

(4) バイオテクノロジーコース(食品生物工学系)

生物の様々な機能をうまく利用して、人類にとって有益なものを作り出す技術がバイオテクノロジーです。微生物を利用して作る発酵食品から遺伝子組換え食品に至る技術まで幅広く学習します。

(5) ライフエコロジーコース(生活環境化学系)

いま世界的に地球環境がクローズアップされている。日常生活に欠かすことのできない化学製品の原料、製法、性質、用途、地球環境への影響を学び、私たちが安全に生活できる、より良い生活環境をつくる技術者を養成している。

### 「繋がる中工」

25年度PTA会長 平尾加奈子



平素より、同窓会会員の皆さまにおかれましては、PTA及び子供達への温かいご支援を賜り、心より感謝しております。

PTAのHPの立ち上げが、遅くなりましたが、中野工業と同窓会と並んで、PTAのページを頂けた事に、大変感謝しております。

是非、PTAのページも覗いて頂けると幸いです。

どの時代でも、「最近の若い者は…」と言われて来た事だと思います。ここ数年の、中野工業の生徒達の成長と取り組みを、是非実際に見て頂きたいと思えます。

限りなく成人に近い子供…それが、高校生ではないでしょうか？

時には、大人ぶって怒られ、そうかと思えば、荷が重い挑戦にもう高校生なんだからと、大人扱いされる。本当に、中途半端で、きつと本人達も戸惑いの多い時代だと思います。

そんな、不安定な年齢の子育てとは、これもまた、親にとっても不安定なものです。

だからこそ、人生で最後の親が参加出来るPTA活動を、積極的に親自身が楽しんでこそ、子供だけの世界と言われる、学校の見えなかった世界を共有出来ると感じております。

毎年恒例の、中工祭での同窓会の展示物を拝見し、TPAでも、恒例として残せる物をとの思いで、昨年「たこせん」に挑戦しました。思いのほか、人気があり今年も「たこせん」メインに新たな物に挑戦いたします。

是非、中工祭に足を運んで頂き、新たな挑戦が、何かを見て頂きたいと思えます。

隣り合わせる、子供達のクラスも飲食です。昨年同様、お互いが宣伝し合いながら、相乗効果を計画しております。

実際に、同じ空間で楽しめる同窓

会、PTAと生徒達は、いい意味での「今の若い者は！」と言って頂けると思えます。

これからも、中野工業らしい、あたたかな活動をどんどん世代を重ね続けて行けるよう、楽しみながら努力してまいります。

### 事務局よりのお願い

同窓会の活動の様子や、同窓生同志の情報交換の場として、本会報を発行しております。

同窓会活動資金として同窓会各年度（毎年）の会費二千元の納入をお願い致しており、毎年多くの方々より賛同を戴いておりますがまだまだ少数です。約一万四百名の同窓生の通信費、母校の部活動等の支援に資金が必要です。諸般の事情をご賢察の上、同窓会会員各位におかれましては、各種お知らせの際同封の払込取扱票にて「会費二千元」を納入して下さい。様お願い申し上げます。

また、住所移転の際には是非とも事務局までご一報下さる様お願い致します。

現在、同窓生の住所の追跡調査をしております。同期・クラスに関係なく同窓生の所在が分かる方はご本人の了承を得てからご一報

下さる様お願い致します。

問合せ先事務局

350-1304

狭山市狭山台2-25-12

田中 正一

Tel : 04-2958-4698

Fax : 04-2958-9729

E-mail : NQD06772@nifty.com

ホームページ開設のお知らせ

母校のホームページがリニューアルされました。

念願であった同窓会のページも開設され、平成二十四年九月十四日より運用開始となりました。より多くの情報を提供できるよう努める所存でございます。

東京都立中野工業高等学校で検索していただき、ご閲覧下さる様お願い申し上げます。

講演会開催のお知らせ

第七回目と成る同窓生による講演会が開催されます。

日時 平成26年3月下旬予定  
午前9時より

場所 母校体育館

講師 第八期機械科卒業の  
樋口豊様

演題 石油会社のもとに半世紀「

ご自身が会社にて経験された石油  
に關してのお話しをして頂きます。  
参加をご希望される方は事務局  
までご一報下さい。

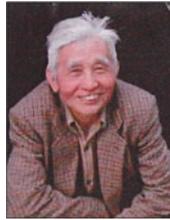
連絡先 事務局 田中正二

Tel : 04-2958-4698

E-mail : NQD06772@nifty.com

## 企業と安全

9MA 吉原 忠一



### 「プロローグ」

薄暗い六畳ほどの部屋に、高い  
位置に小さい窓が一つあり、粗末  
な机と折りたたみ椅子が三脚ばか  
り置かれた所に、私と若い部下一  
人、そして下請けの責任者とその  
部下一人の四名が刑事に案内され  
た。

刑事が机の向う側に座り、反対  
側に私共四人が座った。

言わずと知れた警察の取調室で、  
私もテレビドラマで見たものの本  
物は始めてである。

刑事がおもむろに「昨日の件で、

お宅の所長（発電所長）が、うち  
の署長（警察署長）に、朝、話さ  
れ（電話）たので、事が大きくなっ  
て、私のところで終りにしたかつ  
たが、そう行かなくなつたので来  
てもらつた。」「所長が余計な事  
をしてくれた」と言わんばかりだつ  
た。

私共は、昨日の件で調書を取ら  
れ、私が、警察署長に始末書を提  
出する事で、いわゆる「一件落着」  
となつた。

「昨日の件」とは、平成十三年  
六月六日十三時三十分頃、T電力  
会社 K 火力発電所構内の発電設  
備のある機械を修理している際、  
下請けの若い作業員が左指を骨折  
した事であり、労働災害として労  
働基準監督署と警察署が調査に入つ  
たが、労働災害としては小さな件  
だったので、労働基準監督署は  
「明日、被災者の所属する会社が  
監督署に来て報告書を出すこと」  
で引き上げた。一方、警察署は、  
被災者に、同じ仕事を行つていた  
グループ員の誰かが故意に「怪我」  
をさせたのではないかとの犯罪性  
の観点から調査をしたが、「これ  
は自賠償（自己賠償責任）である」  
と結論し犯罪性は無いと引き上げ  
ました。

これで一件落着かと思いきや、

先の話し次第となつたわけであり  
ます。

私は当時、T電力会社の子会社  
のT工業の現場所長としてK火力  
発電所構内で、火力発電設備の保  
守や新しい発電設備の建設を指揮  
していた。警察に私と一緒に呼ば  
れた部下と下請け会社の部下は被  
災した仕事の担当責任者であつた。

### 「私の仕事の歩み」

私は、昭和三十三年に中工を卒  
業し、東京電力（株）に入社して  
三十八年間、その後子会社に移籍  
して六年間、さらに別の子会社に  
請われて三年間（アルバイト）、  
計、四十七年間に亘り、数ヶ所の  
火力発電所で、発電設備の建設、  
保守、改良、撤去の設計、積算、  
工事の管理、監督を主として行っ  
てきました。特に東電を定年に  
なる前、三年間、ライン職からは  
ずれ、「安全担当」と云うスタッ  
フ職を任せられました。

そんな訳で、この四十七年間の  
経験や、研修から得た「企業の安  
全」について述べて見たいと思ひ  
ます。

### 「安全とは何に」

漢字と言う物は実に良く出来て

いて、「安全」の「安」は、宀冠  
の下に女を書きますが、宀は、家  
又は屋根を表わしますから、家  
中又は屋根の下に女が居る、すな  
わち結婚して妻が家に居ることを  
意味しています。

「全」の入は、天又は倉を表し、  
天の下に王が居る事、又は、倉の  
中に王（財宝・金銭）がある事  
です。

現代流で言えば、「安全」とは、  
結婚してマンションに妻がいる事  
と銀行に預金がある事と解釈して  
良いでしょう。

### 「企業は安全第一」

建設現場や工場、車庫等に「安  
全第一」と言う文字を見受けた方  
が多いと思いますが、これは、ア  
メリカの企業が生産性を高めるた  
めに、どう手を打つたら良いか試  
行錯誤した結果、従業員の安全確  
保を遂行したら生産性が高まった  
事から、世界の企業が、この「安  
全第一」をスローガンに掲げ、安  
全確保に努めているところ  
です。

それはそうでしょう。仕事  
中に従業員が怪我をしたり、機  
械が故障したりすれば、生  
産がストップしたり不出  
来（機械屋はオシャカ  
と言います）になつたりす  
れば生

産性が落ちるのは当たり前です。

安全には、「設備安全」と「人身安全」とがありますが、各企業共「設備安全」については定期的に保守（メンテナンス）をしたり、設備更新したり、設備に安全装置を付加したりして対処しております。

設備保守については、法律で定められている事と企業が自主的に行う事とあります。

例えば、自動車の車検やエレベーター、エスカレーターの点検等、車輛・鉄道・船舶・航空機・化学・石油・石炭・ガス・電気等あらゆる産業設備について、国や自治体から義務づけられて、物によっては、国や自治体の検査を受け、承認されないと使用できない物もあります。

設備更新については、経年劣化で取替える物、法律の変更で取替える物、生産性の向上で取替える物等があります。

設備安全装置付加については、設備自身の安全向上と人身安全向上とがあり、法律の変更や従業員への怪我防止等があります。

人身安全については、企業全般の安全活動と現場作業員自身の安全活動とがあります。

企業全般の安全活動としては、

「労働安全衛生法」に基づき運営活動いたしますが、各企業で比較的長く実施されているものとして「6S運動」があり、これは「整理・整頓・清潔・清掃・躰・習慣」全てローマ字のSで始まります。又、ある工場や事業所で人身事故が発生したら、他の工場や事業所で、同様な事故の再発防止対策を水平展開したり、「安全大会」等を実施したりすることです。

現場作業員自身の安全活動としては、「TBM・KY活動」が代表的なもので、TBMとは Tool・Box・Meeting で KY は、日本語で、危険予知です。「工具箱打合と危険予知」とは、作業する場合、大半が複数員で実施しますから、作業員が現場で、作業に取り掛かる前に全員で、作業内容や手順を確認した上、その作業に対し「どこに、どんな危険が有るか」皆で出し合って、その危険を回避することです。

「企業は人なり」

その昔、戦国武将で有名な武田信玄は、「人は石垣、人は城」と言い、決して城を築くこと無く、配下の武将を大事にしました。

現代の企業においても同じ様な

事が言えると思います。すなわち「企業は人」です。どんな高性能のコンピュータより、どんな高性能の機械より、企業として人材が、その企業の宝だと思えます。

したがって、企業の何処かで事故が起き、人が怪我したり、ましてや死に至った場合、企業としては大損失です。ですから、企業は安全に力を入れるわけです。

企業のある工場や事業所で事故が起きれば、生産や作業は停止し、労働基準監督署や警察署又は消防署が立入り、再開は、それらの署の許可が必要とし、事故が大きくなればなる程、再開に日数を必要とします。企業としては、その間、人を遊ばせたり、機械を止めたりして、生産は落ちるし、収入は無くなるし、社会の信用は無くなるし、真に「踏んだり蹴ったり」です。

昨今の原子力発電が、最も顕著に表していると思います。ですから「安全」が大事なのです。

「エピソード」

プロローグでお話ししたT電力会社は東京電力であり、T工業は子会社の東電工業（現、東京パワーテクノロジー）で、K火力発電所

は神奈川県川崎市にある川崎火力発電所です。

私は、この発電所の勤務が通算で最も長く最初は建設で六年間、保守と改良工事で十八年間、転勤で他発電所に行き、四年半後に戻り、保守で二年半、再び他発電所に転勤し、今度は、東電工業の現場所長として二年間勤務し、保守と同発電所の新設備（ガスタージンと蒸気タービンとの複合発電）の建設に従事し、これで終わりと思ったら、東電の別の子会社、東電設計に請われて、私が建設や保守や改良に汗を流した旧設備の解体の設計積算の指揮を執ることになり、出たり入ったり四回の三十九年掛り合った事に成り、おまけに現在、この発電所のOB会役員をやっています。

なお、この川崎火力発電所は、世界でも最新鋭の発電設備（ガスタージン・蒸気タービン複合発電）で、効率五十九%、出力五十万キロワット、四台で二百万キロワットの旧設備の二倍の電気を起こしています。そして、旧設備解体跡地に、さらに効率向上して六十一%、出力七十万キロワット、二台の発電設備を建設中です。

東京電力広しと言えども、同じ発電所の建設と解体、新しい設備

の建設に携わったのは私ぐらいと自負しております。

ああ、そうそう、警察に私と一緒に呼ばれた若者は、今やベテランのタービン設備の保守、建設の技術者として活躍しています。

最後に、私共、現場の挨拶としての「ご安全に」！で終わらせていただきます。

ありがとうございます。

## 終活、エンディングノートの紹介

11CB 大津幹太郎



「終活」という言葉をご存知ですか？

平成23年の8月31日にNHKの番組「ゆうどきネットワーク」で

「終活」人生を締めくくる準備」が放映され、図らずも私が出演いたしましたので、その概要をご紹介します。

させていただきます。

\*まず「終活」とはなんでしょうか？から始まります。これは人生の締めくくる準備のことで、婚活や就活をもじった造語です。一般には遺言作成や生前に相続を考えること、そしてエンディングノート作成のための準備も含まれます。

\*「エンディングノート（E/N）」とは？

これは、終活の為に体系的に記録するノートのこと、公には法的拘束力のある遺言とは異なり遺族へ伝えるべきことや自分の考え方をまとめて記録し保管するものです。E/Nを作成すれば、心の整理が出来て遺言が作成し易くなると考えられています。

書店では終活コーナーを設けて各種書籍を揃えているところがあり、その中でE/Nは数十種類おかれて700〜2500円で販売されています。ちよっとしたブームになっております。

\*「NHK番組に出演したきっかけは？」2年半前に妻が亡くなり、死の直前に残してくれた子供へのメッセージや連絡事項があつて大

変助かったことから、E/Nの有用性を再認識、一年前からE/N作成に着手してまいりました。折りしも所属しているNPO法人「ニッポン・アクティブライフクラブ」（略称ナルク）東京拠点へNHKが訪問、取材対象として私が推薦され、2日間に亘って自宅へ取材並びに撮影の為の訪問を受けました。

\*「番組の内容は？」

今、何故終活が、そしてE/Nが話題になってきているのか？から始まります。

第1に、東日本大震災を境に多くの人が家族の絆の大切さにあらためて気づき、自身の記録のためにE/Nが若い人も含めて売れ始めたと司法書士の丸山 学氏が述べています。

第2に、私の亡妻が死の直前に準備したことが遺族にとって大変役に立ったこと、特に自分の葬儀に声をかける人達への名簿や銀行通帳と暗証番号、クレジットカード類の一覧表等を作成してくれていたことでした。

第3に生前、自身の生立ちから今日までの足跡、そして子供へのメッ

セージ、誕生から成人になるまでの思い出を散りばめた感謝の言葉「生まれてくれてありがとう」などを記録に残してくれたことが紹介されています。

第4に、私がE/Nの作成することにより、自分の気持ちに整理がつき、そして自分の人生は色々な人から支えられていたこと、また周囲の人達への感謝の気持ちが芽生え、今お付き合いしている人に優しい気持ちで接したいこと等が紹介されています。又70歳になつた機会に、念願だった富士山登頂へ挑戦したこと、健康に留意するためランニングを続けていること、なども紹介を兼ねて終活を薦めています。

各種ある「エンディングノート」の内容は？

\* 自分の生い立ち、自身の人生観

\* 自分の家族へ伝えたいこと（感謝の表現、介護・看病や認知症の 場合の希望等）

\* 終末期の医療の希望（癌の告知、延命措置を含む治療方法、臓器提供の可否）

\* 葬儀・法事の希望（宗派、葬儀方法）

規模、戒名、訃報の連絡先等)  
\*自分の資産状況(財産目録等)

以上のような自分の伝えたい希望や遺族が困らないような連絡事項、愛する家族へのメッセージなどが主体となります。従って相続が主体となる遺言とは異なり、法律に縛られることはありません。

最後に私が所属しているニッポン・アクティブライフ・クラブ『ナルク』を紹介いたします。これは、松下電器産業の役員であった高畑敬一氏が十八年前に設立した団体で、自立・奉仕・助け合いをモットーにボランティア活動をします。六十歳以上の会員が主体、会員数は約二万八千人、全国に百三十拠点以上で構成され、生涯現役を合言葉に活動するNPO法人です。

ナルクはエンディングノートを日本で最初に発行し13版を重ねている最大手で、書店を通さず会員向け販売しております。

もしご興味があればNHK番組のDVDもあわせてお分けいたしますので左記へご連絡ください。

大津幹太郎

oh2miki.danke@yahoo.co.jp

Tel & Fax 042146211395

(この原稿は、2012年4月に発行された工学院大学の「化学系同窓会誌」に掲載されたものを訂正・加筆したものです)

### クラス会報告

3M 桑原 昭四郎



昭和37年(1952年)3月卒業した機械科の人数は、42名ですが、横溝学級としては一種特別なもの(中野工高の前身の都立農産工業の横溝義一先生クラス生徒が含まれている)で総数57名となっております。12年(11月22日に開いたクラス会では、連絡が取れない者12名、故人となられた者20名、連絡が取れた生存者25名中参加者は9名となりました。

場所は、クラス会・飲み会で常に使用している場所で、開催され、出席者の近況報告と、社会状況に対する意見交換、その他年齢なので病気に関する話題(欠席者の殆んどが体調不良と病気持ちで一人での外出が出来ないなどの状況)などでした。

### クラス会の便り

9MA 吉原 忠一



時は春の昼下がり、所は銀座七丁目、とある小さなビル前にタクシーが一台止まり、中から杖を突いた、かなり年配と見られる老人が一人、その左右を、これ又もう少し若そうな老人が二人、ゆっくとビルの地下にある小さな中華料理店に下りて行った。

ので、何組の客が遅いランチを食して、その中を三人が通り抜けて奥の一室に消えて行った。しばらくして、やはり老人十数名が、話しをしながら同じ部屋に入って行った。杖を突いた老人は名を「真壁寛」と申しまして、御年九十四歳とされる元中工の国語の教師で、その他の老人は、この先生の教え子であり、しかも三年間の担任であった。この日、今年の四月五日(金曜日)、二年ぶりのクラス会である。この日を溯ること約一ヶ月前の三月九日、同じ場所で、私を含めクラス会の幹事四名で、今年のクラス会を「どうするか」話し合っていたところ、四人の一人F君から「ブラジルに渡ったM君が来月、日本に里帰りするので皆に会いたがっている」とのこと、急遽、四月にクラス会を開くことに決め、M君に連絡を取ったところ、五日が良いと言うことなので、その日に、この場所で開く事を決めた。実施日まで一ヶ月を切っているので、急いでO君とF君がクラス員に連絡を取った次第ですが、残念ながら二月にA君が亡くなられたことが判明し、私共四十二名の

クラス員の内、七名が他界いたしました。

さて当日ですが、先生のご負担をなるべく軽減するために、私と君との二人で、先生のご自宅（千葉県船橋市）に迎えに行くことになり、津田沼駅からタクシーで先生のご自宅に向き、そのタクシーに先生を乗せ、津田沼駅に戻り、総武快速電車のグリーン車で東京駅に出て、タクシーで会場まで赴いた次第です。

他のクラス員は、新橋駅の機関車前で待ち合わせ、O君とF君が会場に案内した次第です。

会は、亡くなられた七名に哀悼を表して、黙祷が始まり、後は杯の応酬で、楽しい午後の一と時過ぎました。

先生も、かなり酩酊し、クラス会終了後、会場からタクシーでO君が同乗して、先生のご自宅までお送りいたしました。

### 追記

ブラジルのM君に、待ち合わせ場所の新橋駅前の機関車広場を知っているかと聞いたら、ブラジルの日本人なら誰でも知っているとの事でした。

### クラス会情報

10MB 梅田 清永



平成二十五年五月十九日(日)

午後五時より 渋谷 東急百貨店前の飲食店『月の夢』で開催されました。参加人数は当初十名の予定でしたが、当日近くになって、年齢のせいでしょうか『体調が優れない』・『妻の調子が悪いので参加できなくなつた』とのことから、最終的には八人の参加者となりました。

約十年ぶりの再会で話が弾み又ビールも良く飲みました。中には格好をつけて、『おれはワインが欲しい』と言う人も出て、清算の際に幹事から、予算がオーバーした、と苦情を言われました。別れの際は和気あいあい、再開を約束し散会しました。

### クラス会便り

12CB 小林 三郎



私達は昭和33年15歳の時に、工業化学科に入学し、3年間担任の恩師廣瀬先生に色々とお世話になり、ご指導をしていただきました。

在学中は学友と共に学び、共に遊び、そして卒業後、色々とし経験や積み各方面で活躍し、もう55年もお付き合いし「光陰矢の如し」早いもので今年70歳となりましたので、平成24年5月16日新宿にて古希の記念クラス会を開催しました。(クラス45名出席者12名(24%) 欠席者8名(18%) 無回答6名(13%) 消息不明者11名(24%) 物故者9名(20%))

恩師廣瀬先生(83歳健在)を囲み、楽しい思い出、これまでの体験や今後の人生計画などについて語り、初夏の一時を楽しく過ごしました。盃を交わし旧交を温め、再会を約し合いました。

蛇足ながら、主なクラス会開催経過を表に掲げました。

### 12CBクラス会

開催年月日	場所	参加人数
昭和38年12月8日	20才	池袋
昭和46年10月30日	28才	新宿 12名
昭和50年12月7日	32才	新宿「三平酒寮」
昭和52年12月4日	34才	新宿「栄寿司」12名
昭和56年3月28日	38才	神田「越中」11名
昭和61年9月6日	43才	山中湖「けやき庵」13名
平成5年11月13日	50才	新宿「ふる里」15名
平成9年11月23日	54才	新宿「喜楽」
平成15年4月5日	還暦	新宿「土風炉」21名
平成20年4月20日	66才	熱海「ニューフジヤホテル」11名
平成24年5月16日	古希	新宿「北海道」12名

クラス会便り

10MA 渡邊修也

平成24年12月6日、10MAのクラス会をホテルグランドパレスのカトリアで開催しました。同級の池田君が旭日小授章を受章したお祝いも兼ねたのですが、定期的に12月の平日でせわしいこともあって参加者が10名となりました。

体調不良にもかかわらずお祝いのために顔をだしてくれて、すぐに帰らねばならないというA君と勲章と賞状を囲んで記念写真を撮ることから会合は始まり、池田君の受賞にいたる経過説明から、それぞれの近況、欠席者の情報などの話題で盛り上がり、6年ぶりの顔合わせでもすぐに打ち解け、飲み放題、食べ放題の席で、まだまだ若さを感じるひとときでした。なお、この日、お祝いだけで帰ったA君は、残念ながらその後回復することなく、4月に他界されました。クラス会に顔を出したのが最後の外出だったと聞きました。ご冥福をお祈りします。



赤丸スクープ甲子園  
「涙と笑の超スクープ大賞」  
の収録を見学して

7MA 田中 正二

林家木久扇師匠は校門より正面玄関を通り校長室に入りました。校長室では、在学中は主に部活動に関する話しをし、卒業後は某牛乳会社に入社しその後先代の林家正蔵師匠に入門し現在に至っております。

校長室をあとにして食品工業類系（旧食品工業科）の実習工場に向かいました。

実習工場で初めに缶ジュースのラインで説明を受け在学中の事を思い出している様でした。

続いて缶詰のラインで師匠自ら鯖をさばいて缶に容れられる様子をカットして、鯖とたれ等を缶に容

れ蓋をして缶詰封印機械で封印をしました。缶詰封印機械は当時のものと殆んど変わらず懐かしそうに作業をしていました。

続いてレトルト食品のカレーで生徒さん達の実習作業の生産ラインを見学していました。

缶詰及びカレーの熱処理・滅菌が終了するまで時間が係りますので、その間食品工業類系3年生の教室に行き授業参観をしました。

再び実習工場に戻り鯖缶とカレーを試食しました。

（平成25年6月10日、日本テレビで放映されました。校長室での様子と授業参観の様子は放映されませんでした。）



クラス会の幹事さんへ

同窓会の輪を広げる為に、クラス会開催した際には、クラス会便りとお出席者の集合写真等を同窓会事務局までお知らせ下されば幸いです。

「卒業生の歩み」展示の前でPTAの方と



H24-11-3

新春交歓会の様子



H25-2-10

## 平成25年度総会資料

### 平成24年度事業報告

活動目標であった

1. 同窓会会報の発行。10月25日に発行する事が出来ました。
2. 行事（催し事）。
  - (1) 平成24年4月9日 母校入学式 2名出席 於:母校体育館
  - (2) 4月22日 役員会 11名出席 於:母校校長室  
23年度収支決算及び24年度予算案の検討、総会に関し検討、その他
  - (3) 6月3日 24年度同窓会総会 31名出席 於:グランドパレスホテル
  - (4) 7月22日 役員会 10名出席 於:母校校長室  
ホームページ開設及び会報発行に関する検討
  - (5) 8月25日 役員会 6名出席 於:母校校長室  
ホームページ開設に関する検討  
(ISS システム殿提出の CD 資料を P/C で検討)
  - (6) 9月14日 ホームページ運用開始される
  - (7) 9月28日 体育祭 2名出席 於:母校校庭
  - (8) 11月3・4日 中工祭(卒業生の歩み出展) 於:母校
  - (9) 12月16日 役員会 11名参加 於:グランドパレスホテル  
会報発行の件、その他
  - (10) 2月10日 新春交歓会 22名出席 於:グランドパレスホテル
  - (11) 3月2日 母校卒業証書授与式 2名出席 於:母校体育館

#### 平成24年度収支決算書

##### 収入の部

入会金	15,000.	3,000. × 5名
会費	406,000.	2,000. × 203名
寄附金	226,000.	寸志も含む
臨時会費	243,000.	総会、役員会、新春交歓会
預金利子	316.	
小計	890,316.	
前期繰越金	1,858,014.	
合計	2,748,330.	

支出の部		
行事費	130,708.	中工祭、講演会、新春交歓会
会議費	216,247.	総会、役員会
通信費	113,522.	
会報費	718,556.	会報印刷、送送料
事務用品費	17,971.	
ホームページ費	259,560.	母校のホームページを更新のため
振込み手数料	22,760.	
小計	1,479,324.	
次期繰越金	1,269,006.	内訳 三菱東京 493,653.
合計	2,748,330.	ゆうちょ銀行 685,569.
		現金 89,784.

収支決算について上記の通り報告致します。

平成25年4月12日 会計 中村 真一<sup>㊟</sup> 会計 島田 勝利<sup>㊟</sup>

収支決算について関係書類を監査した結果、適正に処理されている事を認めます。

平成25年4月21日 会計監査 西村 満郎<sup>㊟</sup> 会計監査 江野下 健二<sup>㊟</sup>

### 平成25年度事業計画（案）

#### 基本計画

基本的には前年度を踏襲するが、さらに親睦を深め母校への支援を強化していく。会報の発行、文化祭への「卒業生の歩み」を充実していく。

1. 同窓会会員の親睦を一層深めるため、おおいにアピールをする。
2. 同窓会会報の発行。
3. 行事（催し事）。
  - (1) 母校入学式（4月9日）（同窓会より2名出席済み）
  - (2) 平成25年度定時総会（6月2日）
  - (3) 母校体育祭（9月27日）
  - (4) 母校文化祭（中工祭）（11月2・3日）卒業生の歩み出展
  - (5) 講演会（12月下旬）
  - (6) 新春交歓会（2月上旬）
  - (7) 母校卒業証書授与式（3月1日）
  - (8) 役員会の随時開催（2ヶ月に1回程度）

#### 平成25年度収支予算（案）

##### 収入の部

会費	400,000.	2,000. × 200名
寄附金	250,000.	
臨時会費	250,000.	
入会金	90,000.	3,000. × 30名
前期繰越金	1,269,006.	
合計	2,259,006.	

##### 支出の部

行事費	150,000.	中工祭、新春交歓会、その他
会議費	200,000.	総会、役員会、新会員歓迎会、その他
通信費	120,000.	各種案内、その他
会報費	720,000.	会報印刷、送送料
事務用品費	20,000.	
卒業記念品代	50,000.	
体育祭参加賞費	100,000.	
振込み手数料	30,000.	
予備費	869,006.	
合計	2,259,006.	



H25-10-25 発行